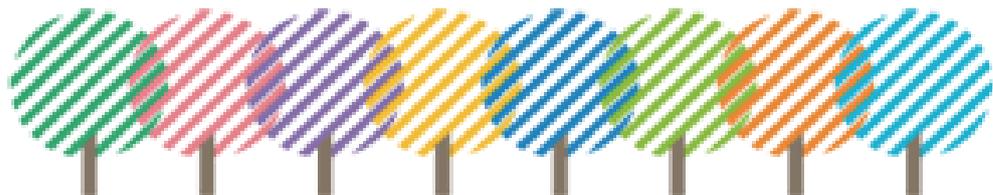


# 2024 年度 学びの杜・学術コース

—学問の世界を知り、創造的な学びの力をきたえる—

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心とする研究者たちが、各学問領域における物の見方・考え方やこれまでの研究成果をわかりやすく解説する、本格的な学術講座です。大学レベルの高度な「学び」を体験することで、知の探究のたのしさや厳しさにふれるとともに、自分自身の興味や関心について深く考え、進学や将来のキャリアデザインにつなげてください。みなさんの参加をお待ちしています。



## <注意事項>

- ・ 参加費は無料です。
- ・ 高等学校・高等専門学校生徒であれば誰でも参加できます。
- ・ 会場は「鶴舞キャンパス」と記載のあるもの以外、すべて東山キャンパスの施設です。詳しい場所は参加者にのみ連絡します。
- ・ 条件を満たした参加者には証明書が発行されます。
  - 事前・事後アンケート（オンライン実施）と、受講記録（受講時に用紙に記入）の提出は、すべての参加者の義務です。提出した受講記録は後日、証明書とともに返却されます。
  - 1 コマを 90 分とし、10 コマ以上に出席した参加者には名古屋大学大学院教育発達科学研究科長による修了証を授与します。出席が 10 コマに満たない場合は高大接続研究センターによる受講証明書を発行します。
  - 申込者数が定員を超過した講義は抽選になります。その際、10 コマ以上の出席を目指す生徒が優先される場合があります。
- ・ センターからの連絡（当日の持ち物、会場の詳細や緊急のお知らせ）は受講者のみに対しメールで行います。定期的に受信メールを確認してください。
- ・ 受講をキャンセル・欠席する場合は、必ず電話またはメールで事前に連絡してください。
- ・ 昨年度までは会場に遅刻している生徒の保護者に確認の電話をしていましたが、今回はご連絡はいたしません。暑さ対策に留意するとともに、保護者・生徒間で事前に話し合い、道中で体調不良になった場合に安全を確保できるようにしておいてください。
- ・ 当日会場で記録用・広報用に写真を撮影することがあります。参加者の顔は写しませんが、後ろ姿や手元が写ることがあります。不安な方は写り込まないよう配慮しますので、スタッフにお声がけください。

## <申し込み方法>

- ・ 申し込みは高大接続研究センター Web サイトの専用フォームで受け付けます。
- ・ 申し込みの締め切りは 7 月 13 日（土）23:59 です。（二次募集を行う場合があります。）
- ・ 抽選結果は後日メールでお伝えします。7 月 16 日（火）までに抽選結果の連絡がない場合は、迷惑メールボックスに振り分けられていないかをご確認の上、お問い合わせください。

## <問い合わせ先>

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター  
担当：高橋まりな 特任助教



申込ページへは右の QR コードからアクセスできます。

## 人文学探究講座

|  |                        |                   |                              |
|--|------------------------|-------------------|------------------------------|
| 申込コード<br>文-01  | 8月2日(金)<br>13:00-14:30 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 考古学からみた暴力<br>中川朋美（考古学・形質人類学） |
| <p>「暴力」はなぜ起こるか？この問いは、様々な分野で研究されてきた。考古学でも同じである。考古学は、人工物や人の残した痕跡から、過去の社会（例えば生産、技術、生活、交流など）を復元することを目的とする学問である。</p> <p>こうした考古学では「暴力」をどのように研究してきたのか。武器、防御機能が考えられる集落、暴力を受けた痕跡が骨に残る事例、武器を使った祭りなどから、過去にどのような暴力がいつ、どこで、なぜ起こったのかを研究してきた。</p> <p>本講義では、縄文時代から弥生時代における暴力の痕跡が残る古人骨を対象に、この問いについて講じる。</p> |                        |                   |                              |

|  |                        |                   |                                  |
|--|------------------------|-------------------|----------------------------------|
| 申込コード<br>文-02  | 8月5日(月)<br>13:00-14:30 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 韓国人が、日本で、チベットの仏教？<br>崔境眞（チベット仏教） |
| <p>韓国人である私が、日本に留学し、その内容はチベットの仏教思想である——この話は珍しく聞こえるかもしれませんが。これは、私の個人的な趣味と、チベットの特殊な状況や固有の仏教文化、留学先として日本でなければならなかった様々な事情が絡み合った結果と言えます。今回の授業では、そのいきさつについて話します。</p> |                        |                   |                                  |

|   |                        |                   |   |
|---|------------------------|-------------------|---|
| 申込コード<br>文-03   | 8月5日(月)<br>14:45-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 大須観音は学問所だったの？—書物が繋ぐ今昔<br>郭佳寧（中世日本の宗教文芸） |
| <p>名古屋市中区にある大須観音は、全国でも有数の商店街として知られています。また、世界コスプレサミットの発祥地としても有名で、今日も若者たちの街として賑わっています。しかし、大須の地名が大須観音に由来していることはあまり知られていません。昔の大須観音は、単に信仰を集める場所だけでなく、日本有数の学問所でもありました。創建から今日に至るまで、大須観音の長い歴史をそこに伝えられてきた書物とともにひも解いてみましょう。</p> |                        |                   |   |

## 教育発達科学探究講座

|   |                         |                   |   |
|---|-------------------------|-------------------|---|
| 申込コード<br>教-01   | 7月25日(木)<br>13:00-14:30 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | こどもの心を知るといふこと —心理学の実験、検査ってなんだろう—<br>三谷真優（臨床心理学） |
| <p>心理学に関連する過去の実験や、子どもの力を測定する検査を通して先人たちがどのように心を知ろうとしてきたのかを一緒に考えていきましょう。簡単な心理検査についても皆さんに体験してもらったり、実際の実験や検査でつかう機器なども見てもらいながら、心とは何か、心理学とは何かを学びきっかけになれば幸いです。</p> |                         |                   |   |

|  |                         |                   |                              |
|--|-------------------------|-------------------|------------------------------|
| 申込コード<br>教-02  | 7月25日(木)<br>14:45-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 多文化共生社会をデザインする<br>内田良（教育社会学） |
| <p>グローバル化の進展に伴い、私たちの身近でも異文化に接する機会が増えて久しくなりました。一方、海外に目を転じてみると、移民問題など、多文化社会における様々な葛藤に関するニュースもよく耳にするようになりました。日本国内でも、政府の外国人労働者受け入れ拡大、留学生受け入れ拡大政策により、今後ますます、多様な文化に触れることが多くなると予想されます。こうした新たな局面を迎える中、多文化共生の実現のために、教育分野ではどのようなことがなされるのか、考えてみたいと思います。</p> |                         |                   |                              |

|  |                         |                   |  |
|--|-------------------------|-------------------|--|
| 申込コード<br>教-03  | 7月31日(水)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 50年前の高校生は何を考えた、どう暮らしていたのか？—『高二時代』を読んでみよう—<br>吉川卓治（教育史） |
| <p>今から50年前、インターネットもスマホもない時代の高校生たちはいったいどんなことに興味を持ち、どのように毎日を過ごしていたのでしょうか。この講義では、この頃人気を集めていた学年別月刊雑誌『高二時代』（旺文社）を手がかりに、今の高校生との考え方や関心の違いを調べて、そこから当時の教育状況や社会背景についても考えていきます。</p> |                         |                   |  |

|   |                        |                   |   |
|---|------------------------|-------------------|---|
| 申込コード<br>教-04   | 8月1日(木)<br>13:00-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 論理的に思考するとは —論理的思考の文化的基盤—<br>渡邊雅子（教育社会学） |
| <p>論理的に考えることは、学術のみならずビジネスや教育、日常の判断に至るまで幅広い分野でその重要性が指摘されています。世界共通で不変のように語られている論理的思考ですが、そもそも論理的であるとはどのようなことなのか、論理、非論理の線引きは何によって行われるのか。論理的に思考する方法は本当にひとつなのか。今や国際標準の書き方となったアメリカのエッセイと、フランスの小論文、日本の意見文/小論文の比較と、論理学、修辞学、哲学、科学の知見を通して、論理的思考について考えます。</p> |                        |                   |   |

|  |                         |                   |   |
|--|-------------------------|-------------------|---|
| 申込コード<br>教-05  | 8月29日(木)<br>13:00-14:30 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | パーソナリティ心理学：「個性」の科学的探究<br>山形伸二（パーソナリティ心理学） |
| <p>あなたは、どのような性格をしていますか。あなたはなぜそのような性格で、その性格はあなたの将来にどのような影響を与えるのでしょうか。このような、性格などの心理的個人差を科学的に研究する分野を「パーソナリティ心理学」といいます。</p> <p>この講義では、パーソナリティ心理学の主要なトピックを紹介すると同時に、科学的研究とは何か、科学的に考えるとはどういうことかについて考えていきます。</p> <p>ゲーム形式のエクセサイズを行いつつ、あなたがあなたらしく生きる方法について、心理学からのささやかなヒントを提供したいと思います。</p> |                         |                   |   |

## 法学探究講座

|   |                         |                  |  |
|---|-------------------------|------------------|--|
| 申込コード<br>法-01   | 7月22日(月)<br>14:45-18:00 | 定員：30名<br>会場：法学部 | 社会生活を支える法システムの成り立ちと弁護士の役割、そして面白さ～ひとりひとりの意思決定を支援し、解決と納得を手作りする～<br>上松健太郎（弁護士／民事法律関係・民事裁判手続・私人間の紛争解決） |
| <p>私たちが暮らすこの社会は、たくさんの人がとても上手に協力することで、なんとかうまく機能しています。この人々の協力を支える仕組みのひとつが、法システムです。法システムには、人々が上手に協力するための基準としての役割もあれば、人と人との間に生じた紛争を解決する役割もあります。この講義では、主に人と人との関係での法システム（「民事法」「私法」分野）を取り上げ、法システムの担い手である弁護士などの法律家が、人の暮らしや会社の事業などにどのように関与しているかをお話します。（名古屋大学内の模擬法廷の見学も行います。）</p> |                         |                  |  |

## 理学探究講座

|  |                        |                   |                                   |
|--|------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 申込コード<br>理-01  | 8月2日(金)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 昆虫のしている世界を探る<br>石川由希（神経行動学・進化生物学） |
| <p>昆虫は私たちの100万分の1の小さな脳で世界を認識しています。彼らはどのように世界を見ているのでしょうか？また、その脳のしくみはどのように進化してきたのでしょうか？「虫の眼カメラ」や「ゲノム編集」など最新の技術を用いた研究例を紹介します。</p> |                        |                   |                                   |

## 工学探究講座

高校で習った数学、物理、化学などを基礎にして、世の中を便利にする新しい技術を開発し、社会に適用するのが工学です。世の中に役に立つどんなことが皆さんに可能かを考えてみませんか。

|   |                         |                   |                             |
|---|-------------------------|-------------------|-----------------------------|
| 申込コード<br>工-01   | 7月25日(木)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 生命現象の出現条件とは？<br>星野洋輔（応用物理学） |
| <p>生命の誕生は現代科学における最大の未解決問題の一つです。生命の出現にはなんらかの条件が存在することは誰もが想定するところですが、一方で今日の生命の存在領域・形態は、多くの人がぼんやりと想像するよりもはるかに広大かつ多様です。この講義では、現在わかっている生命の全体像とその進化過程を追跡し、いかなる条件が生命という自然界で最も高度に組織化された存在を生み出したのかを探ります。</p> |                         |                   |                             |

|   |                        |                  |  |
|---|------------------------|------------------|--|
| 申込コード<br>工-02   | 7月26日(金)<br>8:45-12:00 | 定員：40名<br>会場：工学部 | 創意工夫のオンパレード！電気・電子・情報分野のおもしろい話<br>須田淳（電子工学） |
| <p>小さい頃から電気が大好きで、電子工作、アマチュア無線、ラジコン、シンセサイザー、手作りコンピュータなど、電気電子情報のさまざまな分野に親しんできた須田教授が、電気・電子・情報に関連した身の回りの装置の原理や創意工夫、技術の歴史などについて楽しく解説します。高校で学ぶ物理や化学、数学との関連や、名古屋大学で行われている最先端研究についても言及します。名古屋大学が世界に誇る最先端半導体の研究拠点、エネルギー変換エレクトロニクス実験施設の見学も行います。</p> |                        |                  |  |

|  |                         |                   |                                    |
|--|-------------------------|-------------------|------------------------------------|
| 申込コード<br>工-03  | 7月26日(金)<br>14:45-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 自動運転車が変わる私たちの街と生活<br>三輪富生（環境土木・建築） |
| <p>自動運転車は単なる無人で走る自動車ではなく、我々のまちや生活を大きく変える可能性を秘めています。自動運転車の歴史や将来の予測を交えながら、日々の移動が変わると私たちの街や生活がどのように変わるかについて、事例を挙げながら説明します</p> |                         |                   |                                    |

|   |                        |                  |  |
|---|------------------------|------------------|--|
| 申込コード<br>工-04   | 7月30日(火)<br>8:45-12:00 | 定員：50名<br>会場：工学部 | 大学の化学は楽しい！ 分子の世界：知る、見る、触る、作る<br>石原一彰（有機化学） |
| <p>ダイヤモンドは炭素のみからなる非常に硬い鉱物として知られていますが、厳密にはその認識は間違っており、実際には炭素以外の元素も含まれていますし、割ったり磨いたりできなければ宝石のような形状や輝きは生じません。そのなぞを解くために実際に分子模型を使ってダイヤモンドを組み立ててみましょう。身の回りに存在する様々な物質は小さな分子の集まりであり、各々の分子にも形があります。分子の形やそれを構成する元素の種類によって、匂い、味、硬さなどの物性が異なります。そうした違いを分子レベルで学ぶことができれば、今までよりも、毎日がより豊かで楽しいものになるでしょう。分子模型以外にも簡単な化学実験をデモンストレーションできればと計画しています。希望者を対象に、講義後は実験室見学も予定していますので、高校の化学に興味ある人もない人も、是非、参加してください。</p> |                        |                  |  |

|   |                        |                  |                                 |
|---|------------------------|------------------|---------------------------------|
| 申込コード<br>工-05   | 8月2日(金)<br>16:30-18:00 | 定員：50名<br>会場：工学部 | どろどろぐにやぐにやの物理<br>増淵雄一（レオロジー物理学） |
| <p>私たちの身の回りには、固体とも液体ともつかない物質がたくさんあります。例えばハミガキは固体ですか？液体ですか？口紅やクリームはどうでしょうか？これらのソフトマターと呼ばれる物質の運動を研究する学問がレオロジーで、機械、化学、食品、生物など多様な分野に関係します。この講義ではレオロジーのさわりと面白さをご紹介します。</p> |                        |                  |                                 |

|   |                        |                  |                                      |
|---|------------------------|------------------|--------------------------------------|
| 申込コード<br>工-06   | 8月6日(火)<br>13:00-14:30 | 定員：25名<br>会場：減災館 | 国内外の災害とその教訓・減災館見学<br>富田孝史（環境土木・建築学科） |
| <p>国内外の自然災害とそれらからの教訓としての防災・減災対策について紹介します。併せて、名古屋大学減災館における地震の振動再現装置BiCURIや床面空中写真、触れて学べる耐震実験教材にて体験型学習を行います。</p> |                        |                  |                                      |

|   |                        |                   |  |
|---|------------------------|-------------------|--|
| 申込コード<br>工-07   | 8月7日(水)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 宇宙機の熱設計とは？～宇宙から脱炭素社会を考える～<br>上野藍（機械システム工学） |
| 宇宙の温度は熱いのか？寒いのか？そんな素朴な疑問からはじまり、実際に宇宙機（人工衛星など）の取り巻く熱環境を知り、人工衛星ではミッションを遂行するためにどんな熱マネージメントがなされているのかを実験を通して体感してみよう。さらに、宇宙用の熱マネージメント技術が地球上でどのように役立っているのか？などを踏まえて脱炭素社会の問題についても考えてみましょう。 |                        |                   |  |

|   |                         |                 |                                       |
|---|-------------------------|-----------------|---------------------------------------|
| 申込コード<br>工-08   | 8月26日(月)<br>10:00-12:00 | 定員：8名<br>会場：工学部 | 原子炉シミュレータで原子炉を運転する<br>山本章夫（総合エネルギー工学） |
| 原子力発電所の運転員の訓練にも用いられている原子炉シミュレータを用いて、原子炉を運転します。仮想的にいくつかの異常事象を発生させ、原子炉において安全性がどのように確保されているのかを見てみましょう。 |                         |                 |                                       |

|  |                         |                 |                                  |
|--|-------------------------|-----------------|----------------------------------|
| 申込コード<br>工-09  | 8月26日(月)<br>13:00-15:00 | 定員：6名<br>会場：工学部 | 光とレーザーについて知ろう<br>富田英生（総合エネルギー工学） |
| 身の回りには光はエネルギーと密接に関係しています。分光器を使って様々な光源を測定し、その色（スペクトル）を見てみましょう。また、特別な光であるレーザーの特徴と、それを使った原子・分子の測定についてもご説明します。 |                         |                 |                                  |

|   |                         |                   |                                 |
|---|-------------------------|-------------------|---------------------------------|
| 申込コード<br>工-10   | 8月27日(火)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | インフラ・デザインの最前線<br>中村晋一郎（環境土木・建築） |
| 気候変動や少子高齢化といった多様な問題を解決しながら、持続可能で安全な生活を支えるのがインフラの役割です。世界各国で進む最新のインフラ・プロジェクトやそのデザインについて、事例を交えながらお話しします。 |                         |                   |                                 |

## 地域医療イノベーション探究講座 ※この講座は必ず2つの講義をセットで受講してください。一方のみに申し込むことはできません。

|  |  |                      |  |
|--|--|----------------------|--|
| 申込コード<br>地-01  | 7月24日(水)<br>13:00-14:30  | 定員：15名<br>会場：鶴舞キャンパス | 講座1：地域医療とチーム医療（多職種連携医療）について学ぶ<br>高橋徳幸（総合診療医学・家庭医療学・医学教育学）<br>末松三奈（糖尿病・医学教育学） |
|  | チーム医療は、医療安全の観点、患者ケアの質の向上、医療の効率化をはかるために不可欠です。しかしそれだけでなく、チーム医療は少子化および超高齢社会を乗り越える社会モデルとしても位置づけられ、地域医療の現場で推奨されています。本講座では、講義やクイズ、医療者を目指す学生のために開発されたゲームを通して、チーム医療について学びます。 |                      |  |
|  | 7月24日(水)<br>14:45-16:15  | 定員：15名<br>会場：鶴舞キャンパス | 講座2：地域医療とプラネタリーヘルスについて学ぶ<br>佐方初奈（環境教育学・医学教育学）                                |
| 皆さんは地球温暖化、気候変動について何となく知っている・聞いたことがあるかと思います。実はこれらの問題と医療には密接な関係があります。いま地球で起こっていることと医療とのつながりを学び、地域医療ができることを一緒に考えていきたいと思います。 |  |                      |  |

## 医療 VR 探究講座

|   |                         |                      |   |
|---|-------------------------|----------------------|---|
| 申込コード<br>医-01   | 8月23日(金)<br>13:00-14:30 | 定員：15名<br>会場：鶴舞キャンパス | 医療におけるVRを体験しよう<br>藤原道隆（消化器外科学、内視鏡外科学）<br>桜井麻奈美（VRシステム、シミュレーション医学） |
| バーチャルリアリティ（VR）技術は、映像を使ったアトラクショナルなイメージが強いと思いますが、業務への活用も進んできています。実用化の歴史が長いのが、教育・トレーニング分野で、ハイリスクの業種である医療においても有用です。また、博物館でのVR導入も進んでいます。実物とバーチャルの組み合わせで相乗効果が得られるからです。名古屋大学メディカルxRセンターはトレーニング機能も持った博物館で、見学と体験をしていただきます。 |                         |                      |   |

## 質的研究方法論探究講座

|   |                         |                   |                          |
|---|-------------------------|-------------------|--------------------------|
| 申込コード<br>質-01   | 8月19日(月)<br>16:30-18:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 質的研究とは何か<br>大谷尚（質的研究方法論） |
| みなさんが「科学」の方法として思い浮かべるのは、「仮説」を立て、「測定」によってデータを採り、それを「統計」的に分析し、仮説を「検証」することではないでしょうか？しかしこれらを全く行わない科学研究があります。それは「観察」や「面接」によって「観察記録」や「面接記録」などの言語的なデータ（質的データ）を採取し、それを質的に分析する研究で、みなさんが想像する「量的研究」に対して「質的研究」と呼ばれています。またこの研究では「仮説検証」もしません。この講座では、質的研究の方法について、量的研究と対比しながら分かりやすく解説します。また、質的研究の例も紹介します。 |                         |                   |                          |

## 名古屋大学博物館講座

|  |                         |                    |   |
|--|-------------------------|--------------------|---|
| 申込コード<br>博-01  | 8月8日(木)<br>13:00-15:15  | 定員：25名<br>会場：名大博物館 | 二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ<br>大路樹生（古生物学・古生態学）                 |
| 二枚貝を詳しく観察することによって、その構造がその生態と捕食者からの防御と深く関係していることを理解し、「中生代の海洋変革」との関連を学びます。   |                         |                    |   |
| 申込コード<br>博-02  | 8月19日(月)<br>13:00-14:30 | 定員：25名<br>会場：名大博物館 | 超大陸ゴンドワナの謎を追って20000km -南極調査の現場から-<br>東田和弘（地質学・テクトニクス） |
| 地質学者はなぜ南極を目指したのか？ 普段あまり耳にすることのない、テクトニクス研究の最前線について紹介します。  |                         |                    |   |
| 申込コード<br>博-03  | 8月29日(木)<br>10:30-12:00 | 定員：25名<br>会場：名大博物館 | 博物館標本を使って実践！サイエンスコミュニケーション<br>梅村綾子（結晶学・博物館教育）         |
| サイエンスコミュニケーションとは、科学の面白さを伝えるのみならず、科学技術が関与する社会課題を解決するため、市民とともに考え、意識を高めることを目指した活動のことです。授業では、博物館におけるサイエンスコミュニケーションを事例をもとに紹介します。また実際に博物館標本を使って、サイエンスコミュニケーションに有効な「見せ方」を実践してみましょう。 |                         |                    |   |

## 歴史文化探究講座

|   |                         |                   |                                       |
|---|-------------------------|-------------------|---------------------------------------|
| 申込コード<br>歴-01   | 7月30日(火)<br>14:45-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 「草原の国」モンゴルの歴史と社会<br>中村真咲（憲法史・文化財保護法制） |
| 「草原の国」として知られるモンゴルは、日本人にとっては遊牧や相撲のイメージがありますが、じつは激動の20世紀を通して独立を守り抜いてきた「外交巧者」でもあります。まもなく憲法制定100周年を迎えるモンゴルの歴史と社会を通して、中央ユーラシアの中小国の生き残り戦略について考えてみましょう。                                  |                         |                   |                                       |
| 申込コード<br>歴-02   | 7月30日(火)<br>16:30-18:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 中部地方内陸文化圏を考える<br>中村真咲（憲法史・文化財保護法制）    |
| 中部地方には魅力ある城下町が多数残っていますが、それは地域の先人たちの努力によって継承されてきたものです。城・神社・仏閣・武家屋敷・商家などの市街地と祭礼行事・民族芸能・伝統的な生業などの活動を一体として「地域の個性」と捉え、地域の活性化や歴史遺産・伝統芸能の保存・継承につなげていく「歴史まちづくり」について、犬山・美濃・高山を事例に考えてみましょう。 |                         |                   |                                       |

## 社会心理学探究講座

|   |                        |                   |  |
|---|------------------------|-------------------|--|
| 申込コード<br>社-01   | 8月5日(月)<br>8:45-10:15  | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 人種ステレオタイプは信用できるのか？進化心理学からの解説<br>高井次郎（社会心理学）        |
| 人種ステレオタイプには科学的根拠もなく、単純に人びとの先入観や偏見にもとづいて形成されており、それによって人種差別が起こるとされています。果たしてステレオタイプはまったくあてにならない、人びとの勝手な都合によるものなのでしょうか？進化心理学からはどのように解釈されるのかについて考えましょう。  |                        |                   |  |
| 申込コード<br>社-02   | 8月5日(月)<br>10:30-12:00 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | 治安の悪化の原因はメディアにある？メディア心理学・メディア教育への招待<br>高井次郎（社会心理学） |
| 1990年代の研究では、アメリカの子どもは18歳になるまで、テレビにおいて20万件の暴力事件を目の当たりにすると言われていました。しかし、今の時代はオンデマンドでいつでも、好きなビデオをインターネットで視聴することができて、テレビのように規制が容易でなくなりつつあります。このような時代であること、メディアの社会への影響、特に暴力事件の動向に目を向けるべきでしょう。メディア心理学と、子どもへのメディア教育の必要性について検討しましょう。 |                        |                   |  |

## 宇宙物理学探究講座

|   |   |                   |  |
|---|---|-------------------|--|
| 申込コード<br>宇-01   | 8月20日(火)<br>8月21日(水)<br>8月22日(木)<br>13:00-16:15 | 定員：30名<br>会場：教育学部 | アインシュタインの特殊相対性理論を直線と双曲線で理解する<br>齋田浩見（重力の理論物理学） |
| この宇宙そのもの（ブラックホールなども含む）の姿や成り立ちを解明することは、現代物理学の大きな目標の一つです。そして、宇宙を研究し理解していく上で欠かせない物理学の基礎理論の一つが、特殊相対性理論です。特殊相対性理論は、高校1、2年生の数学で理解できますが、重力がない場合の時間と空間の性質を記述する理論です。例えば次のような結論が得られます：      |   |                   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 速く運動する人ほど時間がゆっくり進み（時間の遅れ）、その速さが光の速さに近づくほど時間の流れは止まっていく。</li> <li>○ 棒が速く運動するほどその長さは短くなり（ローレンツ収縮）、その速さが光の速さに近づくほど棒の長さはゼロに近づいていく。</li> </ul> |   |                   |  |
| 他にも、光速を超えられない、質量もエネルギーになる、など高校物理の範囲では説明できない自然現象が理解できます。これらを理解するために必要な数学は、直線と双曲線の方程式・グラフです。直線と双曲線も説明しながら、特殊相対性理論の本質を解説します。   |   |                   |  |